



令和8年3月31日

岩倉市議会議長

須藤 智子 様

厚生・文教常任委員会

委員長 水野 忠三

## 厚生・文教常任委員会 行政視察 報告書

本委員会 行政視察について、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日： 令和8年2月5日（木）
- 2 視察先及び調査項目：
  - 視察先： 名古屋市(港保育園)
  - 調査項目： インクルーシブに関する取組について(インクルーシブ保育)
- 3 出席人数及び氏名：

人数 計7名

委員長 水野 忠三

副委員長 堀江 珠恵

委員 片岡 健一郎

委員 谷平 敬子

委員 大野 慎治

委員 井上 真砂美



委員 木村 冬樹

4 復命事項：

別紙のとおり

## 厚生・文教常任委員会 行政視察 報告書

実施日： 令和8年2月5日（木）

視察先： 名古屋市（港保育園）

文責： 水野 忠三

### 視察内容

#### (1) 視察の目的

障害の有無にかかわらず、すべての子どもが同じ環境で共に育ち合う「インクルーシブ保育」は、共生社会の基盤づくりとして重要性が高まっている。名古屋市は長年「統合保育」の先進的な実績を持ち、特に「発達に課題のある子ども」への柔軟な受入体制を構築している。本市における児童福祉および保育施策の質の向上、さらには多様性を認め合う地域社会の実現に向け、名古屋市の独自制度と現場での実践手法を調査することを目的とした。

#### (2) 事業の概要

名古屋市では、集団生活を通じた発達支援を重視し、市立・私立を問わず障害児保育を推進している。最大の特徴は、保護者の就労等の「保育を必要とする事由」を問わず、3歳児以上の発達に遅れや不安がある子どもを受け入れる「発達援助」枠という独自の入園認定制度を運用している点である。これにより、本来は幼稚園等の管轄になりやすいケースでも、保育園での長時間の集団生活を通じた発達支援と、保護者への多角的なサポートを可能にしている。

#### (3) 詳細内容

- 港保育園における現場実践:

視察した港保育園では、障害のある子とない子が活動を共にする中で、自然な助け合いや個性の尊重がはぐくまれている現場を確認した。園舎はスロープの設置や視覚的な分かりやすさを追求した構造となっており、ハード面で

も配慮がなされている。また、保育士がチームで一人ひとりの特性を共有し、個別の指導計画に基づいたきめ細かな対応を行っていた。

- 「発達援助」枠による早期介入:

就労要件を緩和した独自枠での入園は、保護者が子どもの特性に悩み、孤立しがちな時期に「社会的なつながり」を提供する重要な役割を果たしている。専門的な知見を持つ保育士が日々の生活を通じて発達を促すことで、就学前の基盤づくりに大きな成果を上げている。

- 専門職による巡回相談体制:

園単独の判断に委ねるのではなく、児童発達支援センター等の専門職が定期的に園を巡回し、保育士への助言や保護者相談を行うバックアップ体制が整備されている。

#### (4) 所感と本市への活用・今後の展開

名古屋市の取組は、単なる「受入」に留まらず、子育ての不安を市が制度として受け止める「セーフティネット」としての機能が非常に強力である。本市への応用・活用に向け、以下の視点が必要である。

1. 就労要件の柔軟な運用検討:

障害児や発達に課題のある児童については、保護者の就労状況に関わらず保育園での集団生活を保障する仕組みが、結果として子どもの発達と保護者のウェルビーイングに寄与することを再認識した。本市においても、財政面を精査しつつ、国・愛知県の動向等も見極めながら、要件緩和の可能性も含め、議論を深めていくべきである。

2. 保育現場の環境整備と人員配置:

インクルーシブ保育を実現するためには、保育士の負担増を防ぐ加配人員の確保と、専門性の向上を図る研修の充実が不可欠である。

3. 子育て世代が住みたいまち岩倉市への反映:

多様性を認め合い、誰もが排除されない教育・保育環境の構築は、本市が目指す精神的な豊かさを象徴する施策となり得る。今回の知見を、次期子ども計画や福祉施策のみならず、本市の様々な施策等の策定に向けた議論に積極的に反映させていきたい。



